

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 (教育学) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	小 柳 竜 太
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
論文題目 (Title of Dissertation)			
ラグビー競技におけるパントキックの有効性に関する研究			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)	教 授	出 口 達 也	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教 授	上 田 毅	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	教 授	長 谷 川 博	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)	准教授	黒 坂 志 穂	
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、国内社会人ラグビーおよび国内高校ラグビーを対象にし、数量的な分析手法および質的な分析手法を用いて、ラグビー競技におけるパントキックの有効性を検討したものである。</p> <p>論文構成は、次のとおりである。</p> <p>第1章は文献研究を行っており、第1項では、数量的なデータから検討されてきた有効性の高いプレーを整理した。続く、第2項では、勝利チームのゲーム様相に着目した研究の中で、「パントキック」が多くの研究で共通して報告されていることを示している。そして、第3項と第4項では、パントキックの活用の種類、目的等の実際を整理している。そして、これまでの研究の多くは、数量的な側面からの知見であったことから、第5項では、質的な研究の重要性とその意義を挙げ、数量的な研究と質的な研究を合わせる混合研究方法で本論の研究課題にあたることを示している。</p> <p>第2章は、国内高校ラグビーの試合様相に着目しており、2015年～2019年度に行われた全国高校ラグビーの計75試合、1349本のパントキックを対象にしている。そして、それらのパントキックの活用様相（時間帯・陣地・プレー起点・フェーズ数・ポジション・種類）を詳細に数量的にまとめ、勝利チームと敗北チームで比較することで、勝利チームのパントキックの活用様相を導き、そこから有効性の高いパントキックを検討した。</p> <p>第3章は、同様の研究手法を用いて、その対象を社会人ラグビーとし、2016-2017のジャパンラグビートップリーグの計119試合、4737本のパントキックを対象にすることで、より競技力の高いリーグ様相から、有効性の高いパントキックを検討している。</p> <p>第4章は、質的研究として国内トップレベル選手を対象にインタビュー調査を実施しており、その内容から有効性の高いパントキックを検討している。</p> <p>第5章は、前章のインタビュー調査で得られた知見から、再度数量的に検討することが必要になった項目を新たに設定し分析を行っている。</p>			

第6章は、それらの章で明らかになった知見から総合的な考察を行い、第7章は本論文の結論となっている。

本論文は、次の3点で高く評価できる。

1. これまで単に「活用回数」のみで議論されていたパントキックの数量的な活用様相を、詳細に明らかにしたこと。また、その対象をトップレベルの社会人ラグビーに限定するのではなく高校ラグビーも加え、その比較からユース世代の知見も提示していること。
2. 研究課題の究明に、数量的な研究で始終するのではなく、質的な研究方法を用いていること。また、その対象が国内トップレベル選手で競技力の高い選手の知見であることから、ジュニア世代やユース世代を始め、多くの競技者にとって有意義な知見となっていること。
3. 量的な研究および質的な研究の知見を相互補完的に交えながら、研究課題の究明を行っていること。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和 5年 2月 14日

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)